学びのひろば旭

vol.62

旭市教育委員会
庶務課（☎55-5721）　生涯学習課（☎55-5727）
学校教育課（☎55-5724）　体育振興課（☎64-1132）

良い教育は良い職場環境から

旭市立学校職員安全衛生管理規程を定めました

市内にある小中学校全20校では、約500人の学校職員が勤務しています。教育委員会では学校職員の職場での安全と、健康の確保や心身の保持増進を図るため、平成29年４月１日に旭市立学校職員安全衛生管理規程（以下規程）を定めました。

旭市学校職員安全衛生委員会を設置しました

規程では学校職員の安全や衛生に関する重要事項を総合的に調査審議するため、教育委員会に学校職員安全衛生委員会（以下委員会）を設置することとしています。教育委員会では平成29年度から学校教育課長、校長、教員、医師を構成員として、７人の委員で成り立つ委員会を設置しました。

委員会では、良い教育を行うためには学校職員の心身の健康が大切であることから、まずは安全衛生の現状と課題を把握するため、教育委員会の取り組みやストレスチェック集団分析結果について確認を行っています。校長や教員からは学校現場の現状を聞き、専門家である医師からは適切な助言をもらい、毎回活発な意見交換がされています。

今後は会議で出された意見を学校現場に還元していきながら、学校での労働安全衛生管理体制をさらに整備し、より良い職場環境となるよう努めていきます。

関係機関の連携でいじめを防止

今年度から新たに旭市いじめ問題対策連絡協議会が設置され、７月24日に第１回の会議が開催されました。

この協議会は市、教育委員会、学校、警察、法務局、児童相談所の各機関の職員などのほかに、ＰＴＡの代表、人権擁護委員、大学教授、医師、スクールカウンセラーが委員として参加しています。第１回の会議では今後の活動の方向性、いじめを防止するための方針や方策、万が一重大ないじめが起きた場合の対応などについての話し合いが行われました。

いじめの防止に向けては、これまでも学校を中心として道徳教育を行ったり、アンケートや教育相談を行ったりするなど、さまざまな取り組みを続けてきています。今回、協議会が設置されたことで各機関が情報を共有しながら連携して、いじめの防止に向けた対策を進めることができます。

他の防止策として、大人による子どもたちの見守りや、あいさつ交流などが行われます。近所の子が急に独りぼっちで遊ぶようになったなどの変化を発見したり、困ったときの相談相手となったりするなども考えられます。いじめの防止には安心して過ごせる環境づくりが大切です。全ての子どもたちが笑顔で生活できるよう、今後もいじめ問題への対策を進めていきます。

あさひ輝いた人々

第３回

干潟八万石の生みの親

辻内（つじうち） 刑部左衛門（ぎょうぶざえもん）（生没年不詳）

湖（椿海（つばきのうみ））だったところを江戸時代に干拓し、現在は干潟八万石といわれる農業地域になった旭市。この工事の中心となった人が辻内刑部左衛門です。

辻内は桑名藩（今の三重県桑名市）藩主松平定重の家臣であり、江戸に住んでいました。江戸幕府のことを記録した徳川実紀によると、寛文6（1666）年に江戸幕府の大工頭になった身分の高い人でした。辻内は白井治郎右衛門に協力して椿海の干拓に乗り出しましたが、白井は資金が続かず、干拓計画は一時中止になりました。しかし辻内は諦め切れずに、江戸の高僧鉄牛の助けを借り、再び干拓を始めました。この工事は一人では無理なため、親戚である野田市郎右衛門と栗本源左衛門を干拓工事に参加させました。

寛文10（1670）年井戸野と仁玉間の排水路工事（現在の新川）が完成し、椿海の排水を始めました。徐々に水が排水され、延宝2（1674）年から椿新田の販売が開始されました。値段は1町歩（約１ha）当たり５両でした。

元禄8（1695）年椿新田検地が行われ、18の村が誕生しました。この村の名前は琴田、大間手などいずれも現在の地名として残っています。現在は干潟八万石と呼ばれ、見事な耕地が広がっています。旭市の農業の礎を築いてくれた辻内刑部左衛門。幾度の困難を乗り越え、湖を農地に変えてくれました。

もし辻内が途中で諦めたり、投げ出したりしていたら、今の旭市の発展はなかったかもしれません。

広がる干潟八万石の水田